

福島南ロータリークラブ会報



RI会長 ジョンF.ジャーム テーマ「人類に奉仕するロータリー」

RI第2530地区ガバナー 佐久間 英一

福島南ロータリークラブ 会長 佐久間 功 幹事 横山 りつ子

目標「明るく、元気に広がる奉仕の輪」

平成28年

10月5日(水)

例会場：福島サンパレス

第13回 例会

会員 / 75名 出席 / 52名 出席率 / 69.33%

メイクアップ / 23名 修正 / 75名 修正率 / 100.0%

2016-2017年度 福島南ロータリークラブ会長

会長挨拶

会長 佐久間 功



本日は、ガバナー公式訪問です。何かとお忙しい所、早朝より佐久間英一ガバナーを始め皆様のご訪問頂きました事を心から歓迎いたします。ありがとうございます。午前中のクラブ協議会の通り福島南ロータリークラブも、本年度の地区方針に基づき、事業計画を立てて活動しておりますが、不十分な所が多々あるかも知れませんので、後程ご指導を賜りたく存じます。よろしく申し上げます。また、先の地区大会での米山記念奨学会への寄付3000万円達成クラブ表彰がありました。その時の受賞した盾は入口のテーブルの上へ置いてありますのでご覧ください。

さて、先週の例会は、福島市保健福祉センターでの移動例会となり、保健福祉センターのスタッフのご協力が無事終了できました。例会終了後、福島市役所で、5～6か月から3歳半までの乳幼児に対する食育フードモデルを、会長・幹事・松崎奉仕プロジェクト管理委員長・佐藤社会奉仕委員長・三瓶クラブ会報委員長の5名で小林福島市長ご臨席のもと贈呈式を行いました。福島市からは、福島南ロータリークラブへ感謝状が手渡されました。この時の模様は、すでに福島民報・民友新聞で報道されました通りです。

10月4日、クラブで支援している認定NPO法人アジア教育友好協会による飯館中学校交流授業が行われ、吉田国際奉仕委員長・横山幹事が出席してまいりました。今後も、市内の学校で出前授業を予定していますので、会員の皆様も参観しては如何でしょうか。詳しくは、後日お知らせします。

同日、恵まれた天候の中、第一分区会長幹事会が二本松市で、二本松提灯祭り見物を兼ねおこなわれました。7町内の山車の出発式と、坂を威勢よく引っ張る子供たちの姿、太鼓の音と、暗闇に映えるローソクを灯した数多くの提灯の連山車を堪能してきました。

10月12日(水)のプログラム

- 12:30 ①開会点鐘
- ②ロータリーソング「奉仕の理想」
- ③行動規範の唱和
- ④来訪者紹介と会長挨拶
- ⑤スマイリングBOXの報告
- ⑥ロータリーの友読みどころ
- ⑦誕生日のお祝い
誕生者一分間スピーチ・誕生日の歌
おめでとウシャワー
- ⑧お食事をどうぞ
幹事報告
- ⑨ AEFA 交流授業参観報告
- ⑩ 新会員スピーチ
- ⑪各委員会報告
- 13:30 ⑫閉会点鐘
例会終了後第5回理事会

今後のプログラム

- 10月19日(水) 夜間例会 会員スピーチ
新会員歓迎会
新会員オリエンテーション
全会員セミナー
- 10月26日(水) 猪苗代湖漂着水草回収作業参加報告
大声杯参加報告
姉妹クラブ結成5周年記念行事参加報告
会員スピーチ

地区情報・第一分区・関連情報

- 10月22日(土) 地区社会奉仕委員会セミナー(ユラックス熱海)
- 10月22日(土) 猪苗代湖・漂着水草除去回収作業
- 10月23日(日) 大声杯(あづま球場)
- 10月24日(月) 姉妹クラブ結成5周年記念行事(ニューオータニ)



ガバナー公式訪問クラブ協議会風景



財団大口寄付者メジャードナー表彰
及び第6回米山功労者表彰
鈴木 恒昭 会員



例会終了後、サンパレス福島1Fロビーにて



ガバナー公式訪問スピーチ

国際RI第2530地区

佐久間 英一 ガバナー

1. RI会長 ジョン・ジャーム氏は、クラブは柔軟性を持ち、それぞれの地域に合った方法で、しかも中核的価値観を失わずに、四つのテストに沿って、活動出来る様になったと話したうえで「111年前にポール・ハリスがロータリーを創立した理由と、今日ロータリーに集う人たちの理由は全く同じです。」と話しています。誠実さ、多様性、寛容さ、友情、そして平和といった価値観を共有できる人たちだと思ったからです。私達ロータリアンは「人類の為に、奉仕をすること」が最も大切だと考えています。

2. 三春がガバナーを受ける事について

「田村をロータリーの森に」と5つのクラブを誕生させた先輩のバイタリティーあふれる気持ちを引き継ぎたいという盛り上がり、小クラブでも皆で力を合わせるとガバナーを出せるという事を地区の皆さんに示したいという意気込みで挑戦してみました。

3. ロータリアンがポリオを知る意義を理解する

- *ロータリーの対外優先項目の第一が「ポリオの撲滅」である事。ロータリーが取り組んできた経緯・現状を知る。
- *RI会長のメッセージから私たちがポリオ撲滅から学んだ多くの中で最も大切・シンプルな事は全員が同じ方向に進む事で多くの課題が解決できるという事を知ったこと。
- *2016-17年度が「ロータリー財団100周年」であること
- *世界で良い事をしていくことの最大の取組として「ポリオの撲滅活動を会員に知ってもらい、そして各地域の方々のロータリーへの賛同者を増やし会員増強の足掛かりにし、ロータリー発展の良い循環サイクルにする事。
- *ポリオワクチン投与等「撲滅活動の感動の体験」がより多くのロータリアンの「奉仕の芽生え」となりロータリー組織の礎になっている事例を知る事。
- *日本でのポリオ感染時の他国のポリオワクチンの協力を知り、感謝の気持ちからの「ポリオ撲滅」活動の意義を理解する事。

4. 公式訪問資料「ポリオの現状とお願い」の説明（※配布資料のページ番号に基づいて掲載させて頂いております）

- P1 ポリオアンケートからの結果の説明、ポリオを知らないロータリアンの現実を知る
1985年にロータリー創設80周年記念事業として「ポリオ撲滅計画」が何処の団体より早く発表されました。当時の撲滅は夢物語でした。
- P2 1988年当時感染国数は125ヶ国、感染者数が35万人、日本でも6500人の感染者が発生した歴史があり、緊急輸入によるワクチン投与が行われました。
- P3 インドは世界の中で最も困難な国と思われていましたが各国の取組が功を奏し2014年に撲滅され、日本からも多数のロータリアンによる一斉ワクチン投与の参加があり大変な感動の喜びがありました。
この様に1988年の35万人の発生から、2015年には2ヶ国アフガニスタンの20例、パキスタンの54例になり、ポリオ撲滅も夢ではないところまで来ているという思いであります。

P4 パキスタン、アフガニスタンはどちらもイスラム共和国ありまして、いまだ政情不安から一進一退の状況のうえ、迷信もはびこり母親の協力も得られないこともたびたびであるようであります。

P5 ロータリーはご存知の通り単独で撲滅活動を続けているのではなく、世界ポリオ撲滅推進活動等のパートナー仲間と手を組んでおりまして、2013-18年までの計画としてポリオ撲滅最終推進計画というものをを出しております。

P6 私共がポリオ撲滅のためにしなければならないことが沢山ありますがまとめて見ますと監視活動、活動員の増強、継続しての予防接種等があり、それぞれ大変なお金が必要な実態であります。これらの活動資金の協力が絶滅活動の最高の活動と思います。

P7 2012-15年度の寄付額を見ますと米国について現金寄付額は多いのですが会員当たりの数字になりますと先進国では最下位に近い状況にあり、ぜひご支援の頂きたいと思っております。各人毎年30ドル、クラブで1500ドルのご協力をお願いいたします。